

「不登校に関する教員対象調査」の集計について（概要）

令和7（2025）年2月12日
 教委事務局教育政策課

1 調査の目的

不登校の児童生徒や保護者との関わりの中で教員が課題と感じていることや、各学校における取組状況等について調査することにより、今後の不登校対策の充実に資する。

2 調査期間

令和6年11月～2月

3 調査対象（2,638名）

主催者	対象者職名	研修名	受講者数
栃木県総合 教育センタ ー	教諭	初任者研修、2年目研修、3年目研修、5年目研修、中堅教諭等資質向上研修	2,010名
	養護教諭	新規採用研修、5年目研修、中堅研修	60名
	教頭	新任教頭研修、2年目研修	328名
宇都宮市 教育委員会	主幹教諭・ 教諭	中堅教諭等資質向上研修、教職20年目研修、キャリアマネジメント研修、 宮・リーダー研修	154名
高校教育課	教諭	令和6年度県立学校生徒指導連絡協議会	86名
計			2,638名

4 回答状況（小学校523人、中学校261人、高等学校185人、特別支援学校64人 計1,033人（回答率39.2%））

職種	小学校	中学校	高校	特別支援学校	合計	教職年数	小学校	中学校	高校	特別支援学校	合計
教諭	375	193	147	54	769	1～2年	86	39	25	10	160
養護教諭	25	9	3	2	39	3～5年	198	101	75	27	401
主幹教諭	1	2	1	0	4	6～10年	69	43	25	10	147
教頭・副校長	122	57	34	8	221	11～20年	34	9	16	6	65
合計	523	261	185	64	1,033	21～30年	44	29	20	4	97
						31年以上	92	40	24	7	163
						合計	523	261	185	64	1,033

5 結果概要（主な質問項目・選択肢を抽出）

○ 関わった児童生徒が休むようになった（休みがちになっている）きっかけとして特に多いと感じるもの（3つまで）

	小学校	中学校	高校	特別支援学校
友達との人間関係	42.1	51.7	62.7	14.1
学校やクラスの雰囲気	14.7	26.1	29.2	14.1
教員との関係	9.6	7.7	4.3	10.9
勉強	22.6	33.0	17.8	9.4
生活リズムの乱れ	42.4	39.8	27.0	42.2

- ・全校種で「生活リズムの乱れ」が3～4割程度おり、学校段階が上がるにつれ低くなる。
 - ・小中高では「友達との人間関係」が4～6割程度おり、学校段階が上がるにつれ高くなる。
 - ・中高では「学校・クラスの雰囲気」が2割～3割程度と他校種に比べ高く、中では「勉強」が3割程度と他校種に比べ高い。
- ⇒児童生徒との日常的な信頼関係づくりや、全ての児童生徒が安心して学び、意欲的に取り組む授業づくりも重要。

○ 児童生徒が相談しやすい環境づくりに関する課題

	小学校	中学校	高校	特別支援学校
教職員が多忙	49.3	50.2	50.8	39.1
教職員の相談スキル不十分	22.4	24.9	27.6	23.4
相談場所や部屋がない	24.7	21.8	20.5	32.8

- ・全校種で「教職員が多忙」が4～5割程度、「相談スキルが不十分」「相談場所や部屋が少ない」が2～3割程度いる。
- ⇒児童生徒と向き合う時間や場所の確保、相談スキルの向上に課題を感じている。

○ 不登校（傾向も含む）児童生徒や保護者と直接関わって感じた課題

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
児童生徒	性格や精神状態に応じた接し方や信頼関係の構築	46.3	49.8	53.5	43.8
	登校や別室を促すタイミングや程度の判断	35.9	36.4	29.2	20.3
	校内や教室に入ることを拒む子どもへ促す程度の判断	40.2	40.6	33.5	20.3
	保健室や別室利用の許容の程度の判断	39.8	40.2	39.5	17.2
保護者	保護者と連絡をとれる時間が合わない	37.9	51.7	49.2	21.9
	家庭訪問の時間が合わない	33.8	54.0	27.6	15.6
	家庭連絡の頻度や方法が適しているか分からない	36.9	32.6	33.0	23.4
	保護者と子どもの支援ニーズが一致せず対応が難しい	36.3	34.1	33.5	34.4
	保護者の理解と協力を得ることが難しい	25.0	25.3	24.9	26.6

・児童生徒は、全校種で「接し方や信頼関係の構築」が4～5割程度おり、小中高では「教室等に入ることを拒む子どもへ促す程度の判断」「保健室等利用等の許容の程度の判断」が3～4割程度いる。
 ・保護者は、全校種で「保護者と子どもの希望が一致しておらず対応が難しい」が3割～4割弱、「保護者の理解と協力が得られない」が2割程度おり、中高では「保護者と連絡をとれる時間が合わない」が5割程度と他校種に比べ高い。
 ⇒医療の知見等も踏まえた児童生徒への対応や、児童生徒の個別状況を踏まえた対応、保護者との信頼関係の構築に課題を感じている。

○ スクールカウンセラー等の活用に関する課題

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
来校日が少ない	SC	40.3	37.5	28.6	14.1
	SSW	24.7	23.8	10.3	10.9
来校日が合わない	SC	22.8	23.8	15.1	17.2
	SSW	15.9	19.9	7.6	10.9
家から出られない子の利用が困難	SC	20.3	30.7	27.0	18.8
	SSW	10.5	13.8	6.5	9.4
本人等に利用の意思がない	SC	33.7	39.1	37.3	15.6
	SSW	19.9	19.9	8.1	7.8
つなぐ場面が分からない	SC	13.4	13.4	4.9	31.3
	SSW	25.6	29.1	32.4	31.3
専門性が分からない	SC	7.5	8.0	6.5	10.9
	SSW	16.1	19.2	23.2	18.8

・「来校日が少ない」について、小中でスクールカウンセラーは4割程度、スクールソーシャルワーカー2割程度。
 ・「来校日が合わない」について、スクールカウンセラーは小中で2割程度、スクールソーシャルワーカーは中で2割程度。
 ・「つなぐ場面が分からない」「専門性が分からない」は小中高でスクールソーシャルワーカーよりスクールカウンセラーが低い
 ⇒スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの来校が少ないことや、スクールソーシャルワーカーにつなぐ場面がわかりにくいことに課題を感じている。

○ 民間の支援機関（フリースクール・居場所等）や福祉の関係機関（児童相談所・健康福祉センター等）との連携に関する課題

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
関係機関ごとの機能の違いが分からない	民間	90.8	89.7	89.7	26.6
	福祉	58.9	72.8	35.1	39.1
関係機関との情報共有等に時間がかかる	民間	50.7	59.8	8.6	14.1
	福祉	50.3	49.8	5.4	18.8
関係機関を保護者にどのように紹介したらよいか分からない	民間	14.5	18.8	6.5	23.4
	福祉	17.8	23.8	21.6	28.1
関係機関における個々の児童生徒の学習状況を踏まえた出席扱いの判断が難しい	民間	14.0	22.2	0.5	0.0
	福祉	26.8	28.4	25.9	21.9

- ・「関係機関ごとの機能の違いが分からない」については、民間が4～5割程度、福祉が3割程度。
 - ・「関係機関との情報共有、対応方針の検討等に時間がかかる」は3～4割程度、「保護者にどのように紹介したらよいか分からない」が3割程度いる。
 - ・「出席扱いの判断」については、民間、福祉とも中高が他校種に比べ高い。
- ⇒関係機関との連携や、保護者への情報提供、出席認定の判断に課題を感じている。